

# 第1回熱海市伊豆山復興まちづくり推進懇話会

日時：令和5年10月23日(月)

14:00～16:00

場所：熱海市役所第3庁舎第1・2・3会議室

## 1. 開会

事務局

定刻となりましたので、ただいまより、第1回熱海市伊豆山復興まちづくり推進懇話会を開催させていただきます。

本日の進行をつとめさせていただきます。観光建設部長の程谷です。なお、本日の会議には、報道関係の方、また、傍聴の方が入室しますので、ご承知おきください。

なお、原委員につきましては、新幹線の遅延により、到着が遅れているとのことです。それでは、着座にて進めさせていただきます。

はじめに本日、配布している会議資料の確認をさせていただきます。お手元の資料ですが、資料番号がそれぞれ右上に記載しております。最初に本日の会議の次第です。次に、資料1-1、1-2。続いて資料2-1。続いて資料2-2、2-3。これらにつきましては、公表されている計画書になります。これにつきましては、委員の皆様にもみ配布させていただいております。続いて資料3-1、3-2。参考資料の1、2、3と3つ参考資料がございます。本日の会議資料は以上となりますが、不足等あれば、事務局に申しつけください。

また、本日の次第6の意見交換につきましては、限られた時間の中で、皆様のご意見を頂戴するため、まずは1人5分ほどの時間をとりまして、それぞれのご意見を伺った上で進行していきたいと思っておりますので、ご了承ください。

それでは、会議を進めさせていただきます。

## 2. 委員委嘱

事務局

次に、市長より、委員の皆様へ委嘱状を交付させていただきます。市長が皆様のお席に伺いますので、その場でお受け取り願います。

委嘱状、當摩達夫様、熱海市伊豆山復興まちづくり推進懇話会委員を委嘱します。令和5年10月23日、熱海市長齊藤栄よろしく申し上げます。委嘱状、大館篤様、以下同文、よろしく申し上げます。委嘱状、高橋一美様、以下同文です。よろしく申し上げます。委嘱状、前田真弓様、以下同文です。よろしく申し上げます。委嘱状、太田かおり様、以下同文です。よろしく申し上げます。委嘱状、大館節生様、以下同文です。よろしく申し上げます。委嘱状、中島秀人様、以下同文です。よろしく申し上げます。委嘱状、高見公雄様、以下同文です。よろしく申し上げます。

次に、熱海市長、齊藤栄よりご挨拶申し上げます。

## 3. 市長挨拶

齊藤市長

市長の齊藤でございます。ただ今、皆様へ委嘱状を交付させていただきました。本日は、大変、ご多忙の中、伊豆山復興まちづくり推進懇話会にご出席いただき

まして、誠にありがとうございます。

現在、伊豆山の被災地域では9月1日に警戒区域が解除され、立ち入りが自由にできるようになりました。

被災された皆様が現地に戻り、生活を再建、再開させるためには、被災宅地の復旧やライフラインの復旧などを、着実に進めていかなければなりません。

また、逢初川の河川、道路の整備につきましては、住民の皆様のご理解、ご協力をいただけるように、進めてまいりたいと考えております。

市といたしましては、引き続き、国、県、ライフラインの事業者などの関係機関と連携をしながら、被災地域の復旧復興に向け、力を尽くしてまいります。

本懇話会は、昨年度に伊豆山復興計画検討委員会を通じて策定いたしました伊豆山復興基本計画と伊豆山復興まちづくり計画の進捗の、ご報告と意見の聴取を目的としております。

今回は第1回ということで、これまでの計画について簡単におさらいをした上で、その内容の経過報告をいたします。

この会は、復興計画の進捗状況を確認する意見交換の場であります。委員の皆様におかれましては、地域や各団体の代表として、被災された方や地域の皆様の様々なご意見を広く吸い上げていただくとともに、復興計画に対して忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

#### 4. 委員自己紹介

事務局 次に、本日の会議が委員の皆様のお顔合わせとなりますので、委員の皆様より一言ずつ自己紹介をお願いしたいと存じます。

マイクをお持ちしますので、當摩委員よりお願いいたします。

當摩委員 現在、岸谷の町内会長、そしてまた、伊豆山地区、7つの町内会があるんですけども、伊豆山地区の連合町内会長をやっております當摩でございます。どうぞよろしくお願い致します。

大舘篤委員 岸谷町内会の大舘と申します。今、町内の監査をやってますんで、ちょっと色々、復興の方に関してですね、なるべく協力したいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

高橋委員 伊豆山の浜町内会、会長の高橋と申します。よろしくお願い致します。

浜地区のですね、住民の皆様のお声をですね、ここに持ってきて、少しでも皆さんのお役に立てるような活動、行動をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

前田委員 仲道町内会の前田真弓です。よろしくお願い致します。

私は、町内会の方で教育や子供たちのことなんかを見守っています。災害が起こった時は、うちの目の前でしたので、災害が起こってから家に戻って、それからの日々はずっとその場所を見ながら生活をしています。色々な意見が出ると思っておりますので、それを参考に、私の意見も話していきたいと思っておりますので、よ

ろしくお願いいたします。

太田委員

岸谷に住んでおりました、太田と申します。

自宅は、この土石流で全壊をしまして、ただいま湯河原町の方に避難しております。ぜひ、被災者の立場としてお話ができればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

大館節生委員

伊豆山で、絆を取り戻そうという会から、参りました。大館です。絆を取り戻そうは、毎月、今まで開いてたんですけど、一応2年経ったもので、ちょっと、回数を減らしてしまっていて、年にでも、2回か3回ぐらいか、なんかしらの会をやろうとって、やっています。

その中から、意見を吸い上げて、この会で発表できたらいいなという風に思っています。よろしくお願いいたします。

中島委員

警戒区域未来の会の代表をやっています、中島です。警戒区域の中の52名で、23世帯の代表として、意見を吸い上げて、この場で聞いていただいて、みんなのために役に立てばと思って、やっています。よろしくお願いします。

高見委員

法政大学デザイン工学部より参りました高見と申します。私自身、前職の、民間プランナーの時代に阪神淡路大震災をお手伝いした経験もありますし、12年前の東日本の時には、コンサルタントとして、また、その元で、大学にもいましたので、学識としても、色々知った経験があるということで、参加させていただいてるのかなと思います。

伊豆山の復興につきましては、今年の復興計画を作成した時の委員としても参加させていただき、今回の懇話会は、その昨年度策定した復興計画を、よりよく実施するために、熱海市と地域住民が意見交換をする大事な場だと思っております。そういった会議において、私も経験を活かしながら、より良い復興が進むよう、ご協力できたらと思っております。

皆さんのお手元に、今日の配布資料とは別に、冊子を配らせていただきましたが、これは実は、東日本大震災の2011年度に、現場が大混乱しているなか、同時に国は、中央において、その大急ぎの復興事業であってもいい町を作るべきだという、いい町を作る時に配慮すべき事項をまとめたものであります。多分、熱海の復興につき、災害の種類とか大きさとかも違うんですけども、これから伊豆山が復興していくにあたって、色々参考になることもあるんじゃないかなと思います。皆さんに、お持ちいたしました。時間のある時にでも、見ていただけるといいかなと思います。どうぞよろしくお願いします。

事務局

はい、ありがとうございます。本日出席しております職員の紹介につきましては、皆様のお手元に配布をさせていただきました座席表をもって、代えさせていただきますので、よろしくお願いします。

なお、本委員会の事務局は、観光建設部復興調整室が務めさせていただいております。

次に、会議に入る前に、本日の会議の成立についてであります。

本日の会議につきましては、現在、原委員が遅れておりますが、委員の過半数以上、全員にご出席をいただいておりますので、懇話会設置要項第7条により、会議が成立していることを報告いたします。

次に、副座長の選出についてであります。本懇話会には、懇話会設置要項第6条により、座長1名、副座長1名を置き、座長は市長を持って充て、副座長は、座長の指名により定めるとされています。この後の会議の進行は、齊藤座長にお願いいたします。

齊藤座長

はい、それでは、会議を進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。まず、副座長の選出であります。

懇話会設置要項の第6条によりまして、副座長は、座長の指名により定めるとされております。そこで、都市計画、また、復興事業に高い見識をお持ちで、今回の学識経験者でおられる、高見委員を副座長として、指名させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、次第に従って、進めていきます。次第5の議題に入ります。

(1)の熱海市伊豆山復興まちづくり推進懇話会設置要項についてから、(3)の熱海市伊豆山復興基本計画、復興まちづくり計画における施策の状況について、(1)から(3)まで、事務局から説明をお願いします。

## 5. 報告

事務局

事務局より、報告の1番から3番につきまして、ご説明をさせていただきます。都市整備課の渋谷です。よろしく申し上げます。それでは、着座にて失礼いたします。

報告の1番でございます。熱海市伊豆山復興まちづくり推進懇話会設置要項について、主要な部分を抜粋してご説明をさせていただきたいと思っております。資料1-1をご覧ください。

熱海市伊豆山復興まちづくり推進懇話会設置要項の第1条、懇話会の設置についてでございます。読み上げをさせていただきます。第1条、令和3年7月1日からの大雨により、伊豆山土石流災害からの復興に向け、熱海市長の求めに応じ、復興計画に関して意見を聴取するため、熱海市伊豆山復興まちづくり推進懇話会を設置する。としてございます。

次に、第3条、懇話会の事務についてでございます。第3条、懇話会は、次に掲げる事務を所掌する。1、復興計画の内容に関する事。2、前項に掲げるもののほか、復興計画に関し市長が必要と認める事項に関する事。となつてございます。

裏のページをおめくりください。第5条、委員の任期でございます。第5条の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。となつてございます。熱海市伊豆山復興まちづくり推進懇話会設置要項につきましては以上でございます。

続きまして、資料1-2をご覧ください。

熱海市伊豆山復興まちづくり推進懇話会の当面のスケジュールイメージについてでございます。四角の中の黒丸の2つ目、読み上げさせていただきます。

懇話会の開催については、前年度末までの復興計画、（復興基本計画、まちづくり計画）に基づく各施策の進捗状況を取りまとめ、評価したものについて意見をいただく場と、各施策の見直しなどを検討した改正案について意見をいただく場の年2回を予定しております。

下の表をご覧くださいませでしょうか。資料の年度ごとのスケジュールでございます。最初に、令和5年度、今年度につきましては、警戒区域の解除に向けた対応などから変則的に第1回目の開催が10月となり、施策の改善検討、改善案の取りまとめを来年の2月までに行い、素案をまとめ、第2回目の懇話会を来年の3月に予定しております。

右側でございます。令和6年度以降でございますが、第1回懇話会進捗状況等の報告を6月に行い第2回目の計画の改善案等の報告を12月に予定をして、それ以降この予定ということでスケジュールを進めてまいりたいと考えてございます。懇話会のスケジュールにつきましては以上でございます。

次に、報告の2番でございます。資料2-1をご覧ください。

熱海市伊豆山復興基本計画、復興まちづくり計画の概要についてでございます。内容を抜粋して説明をさせていただきます。資料のまず1ページをご覧ください。復興基本計画、復興まちづくり計画の概要でございますが、復興基本計画は、令和4年6月に策定し、復興の基本理念や目標、方針を全体の政策分野で示す計画となっております。

復興まちづくり計画は、令和4年9月に策定し、地域再建の方針や土地利用の方針など、伊豆山地区に特化したまちづくりの方向性を示す計画となっております。中段でございます。(2)計画の対象区域でございます。

復興基本計画、まちづくり計画の対象区域は、災害を受けた伊豆山地区とし、安全、安心の街づくりとして創造的な取り組みについては、学区及び伊豆山地区連合エリアも含めた地域としてございます。

3ページをお開きください。

計画の基本目標、基本方針及び復興に向けた取り組みでございます。基本目標として、安全、安心の確保、速やかな生活再建、創造的復興として整理をしております。基本方針としては、安全、安心なまちづくり、住まいや生活への支援、環境向上に資する創造的取り組みとしてまいります。

施策実施のスケジュールについてでございます。復旧復興に向けた事業推進期間を短期3年、中期5年、長期10年とし、事業スケジュールの進捗を管理しながら推進いたします。復興基本計画、復興まちづくり計画の概要につきましては、以上でございます。

次に、報告の3でございます。資料は、3-1、3-2でございます。内容は、ほぼ同じでございますが、資料3-1は、取り組み目標別にカルテ形式で具体化し

たものでございます。

こちらの資料を持って、説明をさせていただきたいと思います。

資料3-1をご準備願いますでしょうか。

またですね、見ていただきますとお分りの通り、取り組む表は40件以上ございますので、この中から、復興事業、地域防災や地域の拠点となる施設などにつきまして抜粋して、説明をさせていただきます。

最初に、資料の1ページをご覧ください。カルテの構成でございます。

カルテにつきましては、取り組み目標、令和4年度の実施策、今後の取り組み、スケジュールといった順に整理をさせていただきます。

それでは、各取り組みにつきまして、抜粋してご説明をさせていただきます。まず、3ページをお開きいただけますでしょうか。

取り組み目標、1番上からでございます。取り組み目標は、砂防堰堤の適切な維持管理でございます。令和4年度の実施策は、砂防堰堤の新設でございます。これは、国が行いました砂防堰堤事業により安全の向上を図るというものでございます。

実施につきましては、令和4年3月に工事に着手をいたしまして、令和5年3月13日に伊豆山砂防堰堤は国により完成してございます。次に、4ページをご覧ください。

逢初川の河川改修でございます。

資料の1番下の参考、復興まちづくり計画との関係性というところをご覧くださいと、具体的な取り組み内容をお示ししてございます。

これは、県が実施している逢初川の河川改修事業を進め、安全性の向上を図るというものでございます。令和4年度につきましては、地権者への用地交渉、測量、設計を行ってございます。現在、逢初川が市道と交差する箇所の道路付け替え工事を完了し、市道部分の河川工事に着手してございます。

短期目標といたしまして596メートルとし、今後、用地交渉の継続、工事の施工を進めていく予定となっております。

3つ目でございます。5ページをお開きください。

岸谷本線・取り付け道路の整備でございます。

これは、地区内を縦断する道路を逢初川沿いに整備するという計画についてでございます。令和4年度につきましては、地権者への用地交渉、測量設計を行い、短期目標として342メートルとしてございます。今後、用地交渉の継続、工事の施工を進めていく予定となっております。

次に9ページを開いていただけますでしょうか。

災害時の迂回路の整備についてでございます。これは、既存道路の整備により、2方向避難など地区外に速やかに避難できるルートの確保を図るというものでございます。令和4年度につきましては、進捗はございませんでしたが、長期目標として計画的整備を実施していくこととして、今後、災害時の進捗、避難状況

のアンケートを実施しているところから、計画策定に向けて進めていく予定となっております。

次に、14 ページをお開きください。

消防第4分団詰所の整備でございます。これは、被災した消防団第4分団詰所を早急に新設し、地域の防災力、消防力強化を図るものでございます。令和4年度につきましては、旧第4分団の解体でございました。中期目標として、整備事業の推進として、今後は、分団建設候補地の確定、用地交渉及び工事施工としているところでございます。

次に、飛んで、34 ページをお願いいたします。

公共交通の総合的な見直しでございます。これは、既存のバス路線の継続、運行ダイヤ、運行ルートの見直しをバス事業者に要望していくというものでございます。令和4年度につきましては、協議会設置に向けての事前調整ということでございました。短期目標につきましては、調査、計画策定としております。

現在までに、熱海市地域公共交通活性化協議会が設置されましたので、今後、令和6年度の計画策定に向けて作業を進めているというところでございます。最後でございますが、45 ページをお開きください。

交流地の有効活用に向けた整備でございます。これは、地区の防災交流の拠点となる施設、地域コミュニティ防災センターの整備を進めていくというものでございます。令和4年度につきましては、建設工事の検討を行い、現在、建設候補地の地質調査に着手する準備を進めており、中期目標として、今後、地域の皆様の意見を聞き、建設への検討を進めることとしてございます。

以上、抜粋をいたしまして、施策の状況ということでご説明をさせていただきました。事務局からは以上でございます。

## 6. 意見交換

齊藤座長

はい、ありがとうございます。それでは、今、原委員が到着いたしましたので、引き続き、6番目の、意見交換に進みたいと思います。ただいま、復興基本計画、復興まちづくり計画における施策の状況、そして、また、その他復興計画に関することにつきまして、委員の皆様から、ご意見を、早速ですが、頂戴したいと思います。

今日は貴重な機会ですので、皆様から意見を伺いたいと思っておりますので、1人5分ほどのお時間を取らせていただきまして、それぞれのご意見を伺った上で、進行をさせていただきたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。それでは、半時計回りになりますが、當摩委員からお願いいたします。

當摩委員

色々、今説明をいただきました。まず、岸谷町内の方からまいりますと、この間、二日三日ぐらい前でしょうか、熱海新聞に、岸谷2号線の工事を始めるという報告が出てまして、まだ町内としては細かい内容は見てないんですけども、今までの、避難地区が解除になって立ち入りができるようになって、余計みんな

の声が出ておりますので、これも早くやっていただければと思います。命を守る生活道路は、令和6年になってますけど、もっと早めに、できればやっていただければありがたいというのはあります。それからもう1つが、地域の防災機能の充実、第4分団の件ですけど、今現在、浜地区で、出張所があったんです。その跡地を改装しているんですけども、その中に第4分団の消防車が入っています。ただし、団員自体がですね、3町内中で1番浜地区が少なく、やっぱ消防車を出すには最低2人いなければいけないというような状況があるんですけど、今一番多い消防団員が岸谷地区、仲道地区という分団員が多いものですから彼らがそこまで行くのにやっぱり結構時間がかかっているんです、現在。ですから、消防車を出すのに、普段の前の時よりかは5分以上、10分前後遅れてしまうというような状況がありますので、早めにこの第4分団の機能、これも早く、やっていただければありがたい。これもやっぱ7年ぐらいとなっておりますけど、これも前倒しでできればやっていただくと、地域の安全につながるんじゃないかなと。特に七尾とか七尾団地地区は、大変心配しておりますので、その辺をよろしくお願いしたいと思います。

それから、地域のコミュニティということで、旧猪洞住宅跡地に地域のコミュニティセンターを建設いただけるということで、何か地質調査がもう終わったとかどうのって話を聞いておりますので、これもできれば早めに、今、伊豆山地区で人が集まるところはあんまりないんですよ。まして駐車場なんかほとんどないものですから、猪洞住宅跡にコミュニティセンターができれば、駐車場もあるし、結構人が集まってもらえるんじゃないかということで、なんか1つ1つ申し訳ないんですけど、早めにやっていただけるようお願いしたいと思っております。以上です。

齊藤座長

はい、ありがとうございます。當摩委員からは、道路と、消防の安全安心の拠点である第四分団、そしてコミュニティセンターの状況、それぞれ、今、進めつつあるわけなんですけど、それを少しでも早くというご要望だったと思います。まず、意見を受け止めさせていただきます。それでは、大館委員、お願いします。

大館篤委員

一応、私も、當摩さんが言ったのと同じような形なんですけど、やはり、この計画というのが色々立てられてるんですけど、実際の工事、それが見えてこないもので、やはり我々としてはこう、早め早めにつていうような要求しかできないような状況になっています。

色々なことをやるのに時間もかかるのはわかるんですけど、もうちょっと優先順位ですね、道路とかそういうのを優先するとか、防災を優先するとか、その辺の、メリハリをつけた形で説明していただいたり、実行していただくと、もうちょっとわかりやすいのかなと思います。それで、とりあえず今のところ色々計画書を見させていただいてるんですけど、私としては、ちょっと目に見えてこないんで、その辺がちょっと不安です。

あと、ちょっと取り留めのない話かもしれないですけど、やっぱり我々の意見

としては、工事が始まってようやく見えてくるところがあります。だから今だと迂回路ができたぐらいしか見えてないんですね、岸谷の町内の人としては。で、これから先、川がどういう風に行くのかっていう色々説明受けましたけど、それが、難しい言い方かもしれないですが、見えるような形と計画を見せていただかないと、賛成も言いにくいし、反対も言いにくい。その計画だけだとなかなか、なんというか、意見を言いにくい。そんな状況じゃないかなと思ってます。ちょっと取り留めない説明かもしれないですけど、私としてはそういう風を感じたんで、そんな感じでおります。以上です。

齊藤座長

はい。形にできるだけ、工事を着工するまでのプロセスは色々あるわけで、そうであっても、状況が、住民の皆様には伝わるように、努力をしてほしいというご意見だと思います。引き続きご意見を、お願いいたします。

高橋委員

ちょっと大館委員と僕は被る部分があるんですけど、工事をやっているのはわかるんですけど、全体像が見えてないので、どういった計画を持って、行政の方は工事をしようとしているのか、住民の方にはちょっと見えてこないのか、どこをやっているのか、どこをやるようとしているのかっていう、大まかな、全体像が見えてないので、不安になっているという声を聞きます。

住民の声を聞くっていうボトムアップをお願いしたいんですけども、どうしても、そこだとキリがないのもわかりますが、道はこうする予定だよ、川はこんな感じで行くんだよ、このような形で進めているというのを、高齢者がメインな町なんで、わかりやすく、ちょっと行政の言葉ではなく、もう少し目線を合わせた言葉で、説明会をしてほしいっていうのは希望です。1人1人の住民がわかってなさすぎる。なので、情報共有ができない、情報交換できないのが今の住民間ではあるかなと。

なので、こういった、基本計画とか、こういった書面でもらうので、持ち帰って、僕が住民の方に説明をしたいんですけども、じゃ、実際にどう見えるかで、地図を広げて、ここをやっていく予定だよ、来年はここをやっているんだよ、おばちゃんたちはここをやる予定だから大丈夫だよって言葉が、僕らは持って帰りたいなっていうのが願うところなのかなと思います。

齊藤座長

はい、全体像が見えにくいというお話と、専門用語でなく行政の言葉で、町内会長様も、その言葉を使って住民に伝えられるような材料というか、そういったご意見として受け取りました。

齊藤座長

では前田委員お願いします。

前田委員

私は、皆さんやっぱり同じ意見なんですけど、やはり工事をしてる方に対して、高齢者の方は、今日は何をやってんだろう、あそこ、ここずっと何日もこれやってるけどとかってやっぱり聞かれるので、それはわかる範囲では説明をしてあげます。

町内会で回覧板とかに、色々入ってきますが、あれもしっかり見てはいないので、そのような説明会みたいなもの、わかりやすい説明会っていうのをやってあ

げることが大事なのと、夜集まって、夜7時から説明会だとお年寄りが行かれないので、やはり昼間とか午前中とか、そういう時間帯を使ってお話をしてあげたらいいんじゃないかとも思います。

また、コミュニティセンターで「いずさんっち」の開催とか、色々なことをやってくださっていますが、あれも、知らない方のほうが多いです。実際あそこに集まっている方はいつも同じ方ばかりだったり、被災者の方と地元に残っている方が、交流を持って、帰ってきやすい町にしようとか、帰ってきやすくなるように励まそうとか、そういったことを趣旨でやってるはずなのに、なんかそういう方たちとの話ではなく、地域のおばさんたちが喜んで遊んでるような感じにしか見えないので、ちょっとそこは残念な開催じゃないかなと思いますので、改めた方がいいんじゃないかとは思っています。

齊藤座長  
前田委員

なかなか回覧板とかでは、皆さんなかなかそれを見られない。

もう1つありました。9月になって、下の岸谷の道が開通になって、看板が立ちましたよね。ここは被災があった場所ですので、写真を撮ったり何かをしないでくださいと。あの看板が立ったおかげで、そこがそうだということが分かるので、車がやたらに止まったり、人が集まったり、写真を撮ったりっていうことが、今までよりもすごく多くなりました。

だから、そのことはちょっと考え直してほしいと思います。何か違う方向でしてほしいです。

齊藤座長

看板を立てたことによる、別の悪影響が出てるということですね。貴重なご意見ありがとうございます。

また、「いずさんっち」他のこういった活動が、きちんと伝わっていない。また、いらっしゃる方も、特定の、せっかくやっているのに、それが有効に活用されていないと。

前田委員  
齊藤座長  
太田委員

ご存知ない方も結構多いです。

貴重なご意見ありがとうございます。太田委員お願いします。

今までの方のお話を聞いてますと、地元いらっしゃる方も同じなんだと思うんですが、情報が入ってこない、わからないからとても不安になる。今何やってるんだろう。これからどうなるんだろう。いつになったら帰れるんだろうって外に出ている人間は思っています。

もっと市役所からの情報も欲しいですし、地元を離れている分、町内会の方の情報も欲しいです。市役所の方から説明会だよ、と呼ばれる頻度も少ないと思います。この回も年に2回だけなので、オフィシャルなものをそんな何回もやらなくてもいいと思いますが、もっとみんなが気さくに意見交換ができるような、フランクにできるようなものをもっと何回もやっていただきたいです。

皆さんの話につられて話したくなる方もいらっしゃいますし、人の話を聞いていて、あ、そうだ、これは自分のことにも当てはまるって、そういう風に思われる方もいると思うんです。ともかく、みんな話をしてみても、その中で気づいた

こと、それを市の方に話を聞いて、これはどうなんですか、っていう部分もあると思うんです。回数が少ないと、こちらの情報も市には届かないし、市の情報も住民には届いていません。

これからどうなるんだろう。そう思った時の情報も遅いです。もっと早くいただきたい。地元でいらっしゃる方もとても不安だと思いますが、避難せざるを得なくて外に出ている人間もとても不安です。一体いつになったら戻れるんだろう。どんなふうになってしまうんだろう。私は戻れるんだろうか。全然違う、今までと違うような街になっちゃうんじゃないか。常に不安なんです。

情報があれば、その不安は少しは解消されると思います。自分の中でこういう風にしていきたいなって思いも見えてくると思うので、ぜひ情報を開示していただきたいです。

そして、住民の声をちゃんと聞いていただきたい。そうすることで解決できるようなこともあるんじゃないかなと私は思います。情報を出していただく時も、間際でなく、お仕事の関係なんかもありますので、できるだけ早く決まったものは出していただきたいですし、住民に投げかけるものがあるのであれば早く投げかけていただきたい。ぜひお願いしたいです。

齊藤座長

被災されている方、特に市外にいらっしゃる方は、尚更、その情報がなかなか入ってこない。また、非常に遅い、それから、そういうことによって、いつ帰れるのか、不安が増大してしまうと。また、住民の声をフランクに、気さくに、人の話を聞いて、自分の意見を言えるような、そういう場が欲しいとか、そういうご意見、ありがとうございます。

では大館委員、お願いします。

大館節生委員

私も、被害にあった1人なんですけれども、道路を広げるかということで、用地買収は当然絡んでくると思います。それで、うちの場合は、なんかこの辺だよって、測量の人たちが案内をしてくれたんですが、例えば、土地の買収、買い上げについては、いろんな問題があるかと思うんですが、もし、まあ、あんまり賛成しない方もいらっしゃるかもわかりませんが、川の幅はこの辺だよとかね、道路がこの辺まで来るといふのを、下から上までずっとやってみたらどうかと思います。そうすると俺の土地ダメだよとか。私も、将来帰るんですかと言われるんですけど、どうなるのか、ちょっとイメージできないので、まだ考えてます。これが本音のところなんです。ですから、それなら1回、上から下まででこんな計画だよっていうのをやってみたらどうかと思います。そんなような気がしました。

齊藤座長

大館委員がおっしゃるのは、地図上で示すのではなく現場で、現時点の計画を、河川はここで、新たな道路はここというのを現場でってことですね。地図上ではなく、そしてイメージをしやすくする。貴重なご意見ありがとうございます。

では、中島委員、お願いします。

中島委員

これは質問みたいな形式ではないんですか。一応、言うだけ言いつばなしの。

齊藤座長

それがわからなければ、議論にならなければ、当然、私からお答えできることはお答えしますし、また、皆さんから承りますので、基本は皆さんからまずご意見をまず聞く、聴取をさせていただければと思います。

中島委員

わかりました。

私も、復興基本計画で高見先生と一緒に委員としてやらせていただいて、計画は分かっております。その被災から2年3カ月経ってですね、この避難世帯、158世帯がありましたけども、帰還希望は結局最後は今41世帯。

多分その中で、また、僕が聞いている中で、戻らないって方がいますから、多分40世帯ぐらいなと思うんですけど、全体で言うと100パーセントと言ったら、26パーセントなんですよ、帰還するという人が、ということは、74パーセントは戻らないって世帯になります。

僕たちは、復興基本計画や、作ってた時は、被災者、元に戻すというつもりで、私はやってきましたけども、2年ちょっと経って、実際、この復興計画が本当に成功したのかというと、ものすごく疑問があります。当初、被災者を元に戻してあげようということに関しては、あまりいい成果ではないのかなと、いうことがあります。

それを踏まえてですね、復興計画が、大きく1つ、変更された点があると思うんです。それは、小規模改良事業がありましたけども、それを、柱としてやっていましたが、それがなくなった。理由は、用地買収が進まなかったってことなんでしょうけども、ということは、被災者たちが、土地を売らないよ、売りにたくないよということで、この小規模改良事業は、うまくいかないということになったんですが、うまくいかないことが悪いのではなくて、チャレンジしたことは、すごく評価できると思っています。そして、土地整備9割補助というのに、今回、変わりましたということになると、初めの基本計画が変更されてしまったということなので、この基本計画の変更、また少し変更してかなきゃいけないのかなと。

今まで戻ってくると想定されてた158世帯がほとんど帰ってこない、空き地になるということになると、その歯抜けになったこの町をどういうふう再生していくのかということ、逆にまた1から考えなきゃならない。新たに考えなきゃならないってことが、多分生まれてくると思います。これから。まずそれが、基本計画の変更が必要になるってことがまず1つです。もう1つが、土地整備が9割補助になったということで、改良事業をしないので、時間が空きましたよね。そこで、戻れるか、本当は令和6年、7年に戻るのが、すぐ戻れるという、工事が、道路工事をしない、川の河川工事が今まだ行われてないので、じゃあ、今いる人、戻れる人は戻しちゃうということに、今なりました。

今、それを、進めていますけども、実際、戻ります、戻ったら、その後、道路の工事をします。工事をされるということは、戻った方の家の目の前が、道路工事が始まると、自分のうちの前の道路がない状態でそこに住むっていう、工事現場に毎日帰るような形になると思うんです。これ、当初、これはこういうことは

計画の中に入ってなくて、今回変わったからこういう話になったんですが、その人たちの生活環境の問題っていうのは今度出てくると思うんです。まず、年寄りの方とかも、その道路のないところで細いなんか小道みたいに作ってもらって歩くのか、タクシーも入れないとか、まあ色々あるんでしょうけど、そこはこれから、色々問題があるので、言うときりがない。ちょっと私考えてみたんですけど、例えば被災した時の避難路もないし、救急車も消防車も緊急車両が入れない。例えば、夜帰宅する女性だとか子供だとかお年寄りだとか、街灯もない、足元も悪いような、そういう安全性の面も問題ですし、ベビーカーの子連れだとバリアフリーがないですし、例えば、おばあちゃんたちがマックスバリュで買い物して配達をしてもらう。今までしてもらってたのが、道路がないからそこまで行けませんよと言われる。灯油の給油をするって言っても、ガソリンスタンドの方が来れない。ヤマト、佐川などの運送屋さん、小さいものは持ってくるかもしれないですけど、例えば、すごい大きいもの、これはちょっと持っていけるのかどうかとか、例えば、家具やテレビなど、大きいものを購入したり、例えば、もういらなから捨てるとかって言った時、どうするのかとか、こう、出してくると、なんか、ものすごく、色々、その生活環境の問題が、クローズアップされるなっていう風に、想定しました。それが、2つ目です。

あとは、もう1つが、この計画の改良事業がダメになったっていうのは、3割しか、買収が進まなかったっていうことなので、この、河川と道路の工事の遅れですよね。多分遅れると思うんですよ。去年の3月までのことなのでわかりませんが、この後、買収がどういう風に進んでるかによってこの河川、道路の工事の遅れが出るということがあると思います。例えば、新幹線のガード下のJRの交渉がどうなってるのか、こんなことも聞いてみたいんです。

また、用地買収の期限を決めるのか、また代替案のプランがあるのか、そんなこともまた聞きたい。

大きく言うと、その基本計画の変更と、工事による生活環境の問題と河川道路の工事の遅れの影響ですよね。その3つを自分は、問題点として思っています。以上です。

齊藤座長

はい、ご意見もありましたし、課題、問題提起ということだという風に理解させていただきました。まず、小規模住改から宅地の整備の方針を変えた、これは、ある意味、手法を変えたことですから、それに関連する部分が計画の中にあれば、それは当然今後の修正というか、改善の中に、そこは文字を書き換えていく話になると思います。ここはすぐこの場でお答えではないですけど、そういったことも踏まえて、先ほどの家は戻ったけれども道路がないような状況がうまれた時にどう生活環境を対応していくのか、そこに問題意識があるという、そういうご意見だと思います。

そして、3番目のところについては、これは具体的なJRとの交渉は今どうなってるのかということですので、これは意見というか、質問として受け止めさせ

ていただきます。

では、原委員、お願いいたします。

原委員

原です。すいません、私、東京から来まして、今日、新幹線が、三河安城のところで沿線火災がありまして、出た時に止まっておりまして、慌てて東海道線に乗りまして、今、新幹線動いたそうなんですけれども、遅れてしまいまして申し訳ありませんでした。

自己紹介からということで、私自身は今東京に住んでおりますが、私の祖父の時代ですね、昭和10年ぐらいっていう風に聞いております。

熱海の方に、別荘で住んでいる形になってます。私で3代目になります。父は、戦時中は伊豆山小学校に疎開していたという風に聞いております。海のところで、米軍がなかなか東京湾には入れなく、艦砲射撃を撃ってきたとか、そんな話は聞きました。今はですね、母が、伊豆山の方に住んでおりまして、私自身は今、被災したのは、今、新しくできました堰堤と旧堰堤の間に、祖父が掘削しました温泉がございまして、それももう、父の代に組合に変えて、赤井谷温泉組合という形でやっておりました源泉が全て、消失してしまいまして、今度は、新しい堰堤ができたものですから、橋の向こう側ですので、もし、また土石流が起きると、潰れちゃうかもしれないから、起きないということであれば、掘り直しをして、ただ掘り直すと、30メートルの堰堤を、どうやってこれを越えなきゃいけないかと、色々と、まだまだ課題は、山積しているんですけど、そんな形でございます。

実際、こちらの方では、そういう被災をしたということで、被害者の会の方に入っております。なので、被害者の会という形ですけども、私のところでは、家族が亡くなったわけでもないですし、家も消失してなくて、温泉が無くなったということなんで、ちょっと毛色が違いますので、そこをちょっと理解していただければと思います。

会社の方はですね、今東京の方で、商社の三菱商事というところに勤めております。ですので、今日もちょっと後で、この場で言っているのかどうかかわからないんですけども、勤務先の関係で色々この土石流のことにつきまして、相談に乗っていただいて、少しご提案できるかなという風に思っております。

本題の座長の方からお話されました、これについてということなんですけど、色々、私の方もメンバーには入ってなかったんですけども、基本計画書であるとか、まちづくり計画だとか、そういったものを読みますと、皆さん、住んでらっしゃる方はあれなのかもしれませんけれども、意外にその色々なことがわかってきたんですけど、やっぱり疑問はいくつかございまして、

まず、私の方は4点大きな疑問があるのと、細かいところは、これに書き込んできたんで、ちょっとそういう時間があるのかどうかかわからないので、また後にします。

1つ目は、非常にいい理念があつて、多分、こういう計画とかから理念に戻らないと、方向感が失われてしまうんですけど、この理念で、地域が取り戻すとい

うことで、昔に通うってということと、安心安全ってことはよくわかったんですけども、あと、住むところがどうなるかとか、昔に戻す時にどうなるかってのはよくわかったんですが、将来、どういう街にしていきたいのかなってところが、よく見えてこないなっていうのがございました。見えてこないのであれば、私、こういう風にしたいなってことは、ぜひ言わせていただきたいなという風には思っております。これが、まず、理念のところから将来がよく見えなかったということと、言っているのであれば将来こうしたいってことを言わせていただきたいと思っております。

あと、疑問に思ったのが、まちづくり計画まで読んだ後、今度、今日送っていただきました、この施策の状況についてという案のところに行くところで、カルテ式にかわるんですけども、この中では、どういう風に、これが選ばれたのか選ばれてないのかって、ちょっと、プロセスがどういう風に落とし込まれたのかって、背景がわからないなということと、大事なことで、しっかり書かれてるところと、まだ決まってないのか、抜けているようなところがありました。

あと今度、こういったものが書かれた後に、どういうプロセスで、意思決定されていくのかとか、あと、ちょっと、私も企業なものですから、気になるのが、予算っていうのがそれぞれつくんだと思います。この中で、ハードなもの、ソフトなものが、既存の、おそらく被災者支援室とかそういうところでやれるような、兼任でできるようなものも結構あったんですけども、ハードなものでどれくらいの予算があるのかなと。予算が多分限られてるはずですが、そうすると、やっぱり優先順位をつけて、みんなが欲しいものを、それ使って、あんまりいらぬものをやめると、逆に1番良くないのが、みんながあんまりいらなかったものにお金をかけちゃって、最後に大事なもののお金がなくなっちゃったらいけないので、そういう予算とか今後のところは、そういうことを聞きたいなということ。

あと、最後、4つ目がですね、町内会の方が、皆さん、ご苦労されて色々意見集まっていっちゃって、計画書作ってらっしゃると思うんですけども、ちょっとこれ、被害者の会のメンバーだとやっぱり市の意見がよくわからないとか、自分の意見が届いてないみたいな話があったもんですから、ちょっとこれから先、将来のことを書いていく時には、できるだけ、それが分かるように、地元の合意形成ができるような形でやっていきたいなという風に思いました。私の方はですね、三菱商事で、コンシューマー産業グループという、いわゆるローソンとか、熱海の駅にあります成城石井だとか、そこを管轄している部署にいらっしゃって、これまだ全然、どうなるかわかりませんが、対面にそういう人たちがいるので、例えば、私のところは温泉が、今、源泉がなくなっちゃったんですけども、元々私自身はもう1本の源泉だけで、8軒にこのお湯を供給してたんですけども、やっぱり源泉1つだと心配だっただけで、温泉のネットワーク作っていかなくちゃいけないなと思っていました。そのまま何本かの温泉で、一緒に

なって供給したいと。熱海市内はそういう温泉の供給網あるんですけども、伊豆山はないということで、そういった形をしたかったんですが、色々、これを読んでみますと、ワークショップの中で、お店が欲しいとか、銭湯が欲しいとか、そういうご意見があったので、それであれば、その温泉網から、銭湯のような、前、般若院とかありましたけれど、ああいった銭湯とローソンが一緒になってるような、湯けむりローソン、ま、ローソンに行ったら、お風呂ーソンがいいとか言ってましたけども、ちょっと、湯けむりの方がいいってとか言ったんですけども、湯けむりローソンみたいな形で、やってみるのはどうかかと。ただ、人口 1500 人とか 1800 人ぐらいですと、実際はちょっと事業計画として厳しいんですね。だから、やっぱり何かこう、人が集まるような、カルチャーセンターみたいなものとかと一体にするのと、いくつかの、ご当地グルメみたいなのを作っていかないと、なかなか難しいことは難しいんですね。そういったものも合わせてやってみたいなという気持ちはございます。私も三菱商事は、あと 2 年で定年なので、2 年間は色々と担当に話ができますが、その後はOBとなってしまいますので、この 2 年の間に色々とそういうことをやって、地元のために温泉を中心にやっていきたいと思っておりますので、伊豆山でも一般の方にも温泉を供給するような形にすれば町おこしになるんじゃないかなと思っております。以上でございます。

齊藤座長

たくさんのご意見と、また、質問もありました。

まず、1 点目の、町の将来のイメージが今一つイメージできないというご意見で、この計画の中で基本計画、まちづくり計画の中で、一応書かせてはいるんですけども、もし、原委員の中で、ご意見としてこういうことをご自身でお考えということがあればですね、ぜひこの場でお話いただければと思っておりますがいかがでしょうか。

原委員

1 ページめくっていただきますと、右に、下に③で小さな字で書いてありますが、個別源泉利用から次世代型の地域共同温泉へって書いてあります。

理念のところは、先ほどお話した通りですが、次のページのところで、右下、3 のところに、個別源泉利用から次世代型の地域共同温泉の構築ということで、私のところは、左上のところに赤井谷温泉って書いてある、バツがついてるのは、流れてなくなってしまったからなんですけども、その後に青い丸がついてるのが、我々の温泉組合でお湯を供給していた人たちです。で、ちょうど、土石流が起きる前に、赤い丸がついてる人たちと一緒に、温泉源泉を使ってやりましょうってことで、それが、これ多分 B 組合って書いてあると思うんですけども、階段のこの左側にある B 組合の温泉の源泉と、この 2 つだけでこころもとなければ、A 社さんの会社があるので、A 社さんの会社の温泉の源泉が、ちょうど、このかどのところに 1、2 とあるので、その辺を使ってみんなで供給をしてくれて、安定してお湯供給しようって話をしていたところで、私が中心になっていた、うちの温泉がなくなっちゃったので、話が頓挫してしまいました。

で、あの右側のように、赤と青だけじゃなくて、黄色の人たちの、新しい人た

ちなんですけど、それを入れて、もう少し源泉を増やしながらみんなに供給すると、これ、1組合で1源泉持つてると、止まっちゃうと全部供給が止まっちゃうんで、こういう形でネットワークつければちょうどいいですねと。で、そこに、左下にありますが、ローソンのような形で、湯けむりローソンというものをやったらどうだということです。で、この湯けむりローソンのところは、ページめくっていただいて、右下4ですけれども、集会場のようなところなんですけど、やっぱり色々学びができるような、カルチャーセンターみたいなもの、そういったものを入れて人が集まるようにしないとなかなか売上げが上がらないだろうということがございます。4が空き家を利用してというところが、最初、抜けてしまいましたけど、当初は組合員を増やすためには、温泉と、空き家のところに人が来てもらってということで、繋がった形で、私のところ、温泉管に合わせて、人を増やして行って、最初は3名くらいでやっていたんですけども、8名まで増やしていったという形でございます。そこにローソンを入れようということと、今のお話をしましたローソンのカルチャーセンターという形に考えました。その次にですね、やっぱりローソン、それだけだと、儲からないもんですから、何か新しいものをつけてということで、これは私の案で、ヤギで草刈りを考えて、私は母のところに毎月1回来て草刈りやっているのですけれども、草刈らないとイノシンが出てですね、最近非常に危険な状態になってます。なんか猿は減ったんですけども、イノシンが出てくるので、そのイノシン対策ということで、結構こう草刈りを頻繁にやらないといけないので、傾斜地でも、ちゃんとお元気なのはヤギということで。そういったヤギを離すことによって話題性はあるのかなと。あとは、ヤギミルクだとかヤギ肉、そういったものを商品化する形ができるかなという風に思っております。その下にいくつかその発展させた形で、ヤギでヤギソフトだとか、ヤギの肉を使ったカルツオーネとか、観光客が手に持って歩けるという、そういうハンドで食べられるものと。太田委員とかも、農業をやってらっしゃるって伺ったので、唐辛子とか、こういったものを、これは京都なんかの事例で、私も、あのイノシン対策、京都だとか、九州でやってたんですけども、唐辛子って意外に、ハラペーニョだとかそういうのは、イノシンは食べないですよ。なので、そういったものを、作っていただければ、それを使ってご当地グルメみたいなものはできるのかな。あとは、やっぱり、空き家に外食を、いくつか、有名なレストランとかを誘致してもらわないといけないので、これは、よくローソンとかでコンペをしていた、一緒にコラボしていただいているレストランとかでお願いして、いい条件で、温泉が好きだよってということで言えば、来るんじゃないかなってということで、タイ飯だとか、イタリアンあたりがいいかなということで、こんな絵を書いてみました。

こういったものを出すから、皆さん、なんかできませんかと、ある程度、原動力にはなるんじゃないかなと思ってます。私の方がこれをやることで、温泉が、今までの組合員の方に、温泉のネットワークができていますので、今まで、雨が降

ってどっかで外れちゃったりすると、泊まって、また会社休んできてってことしないで済むので、非常にありがたいかな、という風には、考えております。こういったものをご提案させていただきたいなという風に思っておりました。

齊藤座長           ご自身のお仕事の関係で伊豆山の復興につながる事業のご提案をいただきました。ありがとうございます。

先ほどのいくつかの中で、私が答えられる中ですが、まず、落とし込みの話であります。復興まちづくり計画の中で、項目があるわけなんですけども、それを基本的には全部落としてあります。どこをピックアップしていくか、資料3-2を、見ていただくと、これが基本計画、または復興まちづくり計画の全ての一覧になるわけですが、これを全て、1項目、ここで言うところの取り組み目標のところ、1つに、1つのシートに落とし込んだものでございます。

原委員           私から、復興まちづくり計画の方の、ここにも、第3章のまちづくりと将来像で、似た基本計画と同じ出力で出ていて2-1とか3-1とか落とし込んでいて、課題とこれ合わせてみると、課題を解決になってるものもあれば、課題に対して解決がないものもある。課題のところはないけど、こっちの方にも詳しくなってるものもあるから、こことこの落とし込みのところ、どういう意思決定があったのかなと、誰かこれアイデアがなかったのか、あるいは、こっち優先しようよってなったのかってところが、疑問に思ったんです。事務局の方でこれをこっちに落とす時に、色々事情があるんだと思うので、こうなったのかなと。ここ行くときにこうなるのなら、次行くときにどうなるのかなと、疑問に思ったので、ここに落とす時に、疑問に思った課題に変化していくのかな。この辺の意思決定がもう少し分からないと、課題1個1個に対して答えが出ているわけではない。

あまりケチをつけているわけではなくて、よくはできています。ちゃんと1個1個に当たっていますし、今日初めて見ましたけど、多分こういったものがあって、これを下敷きにされて作っていかれているんだろうと思ったんですけども、なんか、例えば、今日、私、これ1個1個について意見があるのか、意見を言わなきゃいけないのかなと思って、1個1個突き合わせていって、疑問に思ったことを書いてきたんです。例えば、長いですか、すみません。

齊藤座長           事務局の方から今の説明で補足はありますか。

事務局           ご意見ありがとうございます。カルテの計画からの落とし込みにつきましては、復興基本計画にあります、後半の43ページにあるんですが、施策実施スケジュールというのがございます。

基本的にはですね、こちらの、各施策を、全て落とし込んだというような形になっております。当然、これから、必要な項目をですね、付け加えたりとか、そうといったことは、検討が必要になってくるという風には、考えております。

齊藤座長　　これが復興基本計画の 43 ページ以降のものを落とし込んだものでありますけれども、これ以外のものを今後付け加えることも当然ありうるということでございます。

原委員　　でも、皆さん腹落ちしてればいいんですけども、私的には、これがあって、この後に、基本計画などの後に、まちづくり計画ができてから、まちづくりが後ですよね。そうすると、そこに細かく、ここに課題が出てから、その課題を分析した後でこれを作っているから、課題はあるけれども抜けちゃってるよ、今、アイデアないよっていうのもあるだろうし、そういうことで来てるのかなど。これは事務局の方で作られているっていうことですよ。これ、落としのところはね。だから、これでもっと重要なことで抜けてるんだったらってことは、今度は住民の方で言わなきゃいけないってことですよ。と思います私は。皆さん、どうかあれですけども。

齊藤座長　　今後、この新しい項目は必要なものが出てくれば、それはきちんと反映してまいりたいと思います。

では、高見委員からお願いいたします。

高見委員　　今、最後に話題になったことについて、計画策定させていただいた時に、副座長しておりましたんでお答えいたしますと、先ほど中島委員からの 158 分の 41 という私としてはかなりショッキングな数字を聞いて、中島委員のそのことを聞く時に基本計画まで立ち返ってみなきゃいけないんじゃないかというお話があったんですが、昨年の立案の段階でも、私どもの気分と気持ちとしては、基本計画はゆるがない、ただ、まちづくり計画はその地権者ですとか相手のある計画なので、まちづくり計画の方はその事業の進捗等によって見直されても構わないけど、基本計画の基本的な考え方は絶対にゆるがないという風に思っており、今でも思います。多分、今、原委員の質問は、まちづくり計画の方で落ちてるのがあるよっていうのは、僕としてはそれはしょうがないというふうに思っておりまして、状況が変われば、変えてもいいです。ただ、基本計画まで戻って変えるのは、賛成できないなっていう風に思っています。それはちょっと、補足なんですけど、実は先日も、私のところに日本経済新聞の方が来られて、その時にもお話ししたんですけど、この伊豆山の災害っていうのは非常に特殊なことがあったと。何が特殊かという、その復興すべき場所に 2 年以上入れなかったってことですよ。東日本大震災ですら、また津波が来るから危ないとか言ってたのは 2011 年の 5 月ぐらいまでで、もう 6 月には誰でも被災地に入れたわけです。その上で、遅い遅いと散々あの、世間から言われました。その東日本が遅いと言われたのは、その前にやった阪神淡路がすごく早かったからなんですね。それはもう、神戸市っていうのはまちづくりの分野であるモンスターでありまして、発災から 2 か月で、復興都市計画を決定しているという、考えられないスピードで話もできました。そういうこともあったんですけど、熱海の場合は、その災害のエリアとかはそう大きくないんですけど、2 年間その場に入れないという、それが特殊事情だと

思います。で、今は入れるようになったので、こっから一気にやらないといけない。ここまでしょうがなかったですから入れなかったんで、それは多分、お役所も含めて、こっから一気にやるぞっていう気分が、すごい大事なんだと思います。一方、その2年が空いたために、これは多分不幸なことなんですけど、なんかみんなの中の切迫感が下がってる部分がありやしないかと思うんですね。

東日本なんかはもうついこの間に、その目の前に多くの方が亡くなったりという中で、もう、とにかくやらないといけないと、なんかみんなある意味興奮してやっていたのが、2年経ってやっぱり人によって落ち着いてしまったりとかして、でもそれは違っていて、やっと今、警戒区域が解けたので、こっから始まるんだって勢いで、一気にやるべき時期だと思います。それは、現場ではそれがうまくいかないよっていう情報なんかこの2年間で蓄積されてしまって、それはできませんっていう理由も多分いっぱい、たまっちゃってるんだと思うんですけども、またそれも忘れて一気にいく時期かなと思っています。

それから、全段の方で色々ご意見があった情報の話なんですけども、これもまた東日本の話として恐縮なんですけど、私、陸前高田を2回指名されてやって、本当にその時に、私の部下とかにですね、あの人、国から派遣されてきたコンサルタントだけど、毎日毎日被災者の人とおしゃべりしてるだけで、いつ仕事してんだろうねっていうそういうコンサルタントになりたかったんです、本当は、できるだけ地元の方とずっとお話をしていて、夜こっそり仕事するみたいなですね。ちょっと諸事情がありまして、陸前高田市は、そういうことさせてくれなかったんですね。その代わりに、東京大学のチームがリクカフェという、やっぱりそういう、地元になんか誰でも来てお喋りができる喫茶店みたいなのを作ってくれました。今回もですね、実はコミュニティセンターが地区にあるのは承知しておりますが、やっぱり地域の中に、あそこに行くといつも情報があって、知ってる人がいて、教えてくれるっていう場所が、もうあるんならいいんですけど、あったらいいなと思います。多分、市役所は、その仕事増やしちゃうんですけど、とはいえ、今から大急ぎで、復興の道路の事業とかも動くでしょうから、現場の近くに1人いるのはいいことじゃん、みたいな感じですね。どなたがいて、もちろん、図面が貼ってあったり、昨日今日起きたことなんかをご存じで、みんながそこに立ち寄ると今どうなってるのかとかね、何が問題なのかがわかるというような情報センターみたいなものがあるといいんじゃないかなと思います。実は、これは、連続立体交差事業と言って、東京などで、鉄道を地面から高架にあげる、大規模な事業があるんですけど、そういう時は大体、ここ近年は、そういう情報センターみたいなのが作られるようになって、もちろん、桁違いの事業費が動く事業でやってますんで、色々できちゃうのかもしれないんですけども、そこに行くと、今、どこまで進捗してます、というようなことが、全部情報が揃っているものがあります。それ的なもので、多分、こちらの場合は、大変でしょうから、多分、市役所の中でよくわかってらっしゃる方がどなたか必ず1人そこに

いると、そんな勝手なこと言っているのかわからないですけども、以前、熱海市さんか、名前変わったみたいですけど、A-BIZ というのやってらっしゃいましたよね。ある時、銀座のサトウ椿の2階に行ったら、市役所の方が座ってられて、ぼーっとしてるから、何してんの。って聞いたら、これで、ずっとその、お客さんが待ってるんだっていうから、そういう感じでできたら、いいのかななんていう風に、さっき聞いて思っていました。

私も、熱海に家持ってますんで、一応、ちょいちょい来てるんですけども、伊豆山、どうなってんのかなと思って、立ち寄りたんですけど、あの一帯、全く車は止めれないので、立ち寄れないので、情報センターには2、3台ぐらい、車をとめられた方が嬉しいかなと思うんですけども、なんか、そういう感じのものがあって、ただ、担当1人だと、昨日うまくいかなかった不具合のことをここで皆さんに喋っちゃっていいのかどうかかわからないみたいなどころはあるとは思いますが、なんとなく、近年ですが、行政側の隠し事で、隠していい結果になったことはほぼない。情報あるなら出してもらったほうが、わかってもらえることが多いと思いますので、程度問題ありますが、そのようなことがあるといいのかな、なんて思って聞いていました。

私たちは、そんなことなんですが、実は、基本計画に、外との交流を増やそうよって、最後の方に書いてあって、その事を、申し上げようと思っていたら、原委員から、画期的な提案がありましたので、それは原さんに頑張ってもらいたいことにしてっていう感じで。ヤギ、いいですよ。UR都市機構も残地の管理に確かヤギ使ったりしてて、外堀のところの急斜面を草刈りするのにヤギ出そうかなって言ったりしまして、そういう楽しい話題も含めていいかなと思いますが、まずはその情報を出す、出す場所を常設するというのが大事かと思います。で、加えてですね、やっぱり SNS 的なことも、まああった方がいいと思うんです。そういうのはやらないよって方も多いと思うんですし。私もちょっと年齢からいって SNS はあんま手を出さないようにしているんですけど、私は、手を出すと、失敗するので、ですけども情報のその受け取り方としては、これまた、やっぱり、復興の1番中心的な、役割を担うべき、市さんが中心になって、そういった、SNS 的な発信もされるといいと思いますが、何よりも対面で、あそこに行くと、聞ける、そんなのができないかな、なんて、思ったりいたします。

齊藤座長

はい、ありがとうございます。伊豆山の災害は、2年以上現地に入ることができなかったということが非常に特殊だという点と、そこに行く情報が常に揃うような場が現地にあったらいいとの、ご提案でありました。ありがとうございました。

それでは、一通り、皆様から、一巡させていただいたんですが、もう少しお時間がありますので、引き続き今出た件でも構いません、他の件でも構いません、無理にご意見を発言する必要もございませんが、また、もう一巡をさせていただきたいと思います。當摩委員から、他にございますでしょうか。

當摩委員

最後の方に、やっぱり、地域の活性化みたいなこと書いてありましたが、今、伊豆山の神社も歴史ある神社で、続いているお祭りがあったんですけども、発災後、発災だけじゃなくて、コロナもあったりして、そういう意味で、ちょっと、ここ何年かやってないんですけど、若い人たちがですね、もうやりましょうと、逆にハッパかけられた状態だから、もう来年度は、どの程度できるかあれなんですけども、とりあえず、神社のお祭りをやったりとか、そういう風な、町の賑わいを取り戻そうと。

また体育会の方で連合町内会で、体育祭をやってたんですけど、それもずっとできてない状態ですから、これも、今年に入りまして、本格的な体育祭は無理なんで、ゲートボール大会のようなことなんですけども、それも、やっていきましようということ、少しずつ、前の、動きが出始めてるといようなこともありますので、これも続けていければいいかと、ずっと思っております。まあ、昔の、賑わいって言いましようかね、そこまで、ちょっと、難しさもあるんですけども、なんとか、そういう形で、明るさを取り戻していこうというように頑張っていきたいと思っております。

齊藤座長

はい、ありがとうございます。大館委員、何かありましたらお願いします。

大館篤委員

そうですね。やっぱり、今色々お聞きしたんですけどね、私自身も。やはり、道路と河川ですかね、それを急いでもらうしかないかなと思います。じゃないと、全体像が見えませんが、大館節生さんが言われたように、なんか工事を現場で見るとか、そういうことから始めて全体が見える形にならないと。やはりイメージですね。あまり町の活性化を推し進めると、帰れない人は、何を言っただって話になりますので、そこを、まず急がなきゃいけないものをなるべく目に見える形でやっていただきたいなと思います。私の方から以上です。

齊藤座長

高橋委員何かございましたらお願いします。

高橋委員

意見というか、住民の声をこの場でちょっとお伝えしとこうかなと思うのはですね、警戒区域の、高齢者の方が帰ろうと思ってた。この2年の中で、帰ろうと思ってたけど、熱が冷めちゃってる。やっぱ、そういった方もいらっしやいました。ただ、でも帰りたい。でも帰りたい理由ってなんなの。伊豆山が好きなのかっていうのが大前提にあるんですけど、要は隣に鈴木さんがいる、横に佐藤さんがいる、後ろに高橋さんがいる。やっぱそういった近所付き合いがあったから、それを求めて戻りたかったんですけど、じゃあ実際にその鈴木さんは戻るのか、佐藤さん帰ってくるのかっていう情報がないから判断ができないというのが現状なんです。なので、戻りたいけど、戻れる判断材料がない。情報共有がないから、じゃあ佐藤さんはどこにいるのか分かってない。鈴木さんは、何してんのか分かってない。連絡がつかないっていうのもあって、高見先生がおっしゃってましたけど、こう、急ピッチに進めなきゃいけない反面、1個人を見ると、そういった高齢者の方は悩んでらっしゃる。

お金の問題だったり、高齢者の方が悩んでるのは、本当コミュニティだと。鈴

木さんがいるなら戻りたいな、佐藤さんがいなければ私このまま湯河原でもいいかな、多賀でもいいかなっていう風な判断にもなってると思います。なので、もう銭金の問題じゃないところまで、この2年でできてしまったのかっていうのもあって、今非常に皆さん判断材料がなさすぎて困ってるのと。あとは結局、じゃ、なんとかその、鈴木さん、一緒に私は戻るから、私も戻るから帰ろうよって一緒に帰った時に、じゃあそこから誰に相談していいの。ライフラインを繋ぐ電気をつけるためには誰に電話していいのかっていう、もうそもそもの第1歩が踏み出せない方が多いんですよ。市役所の方に聞いたところで、事務的なことは伝えてくれるんですけど、やっぱり、じゃあ現場に行っ、何々さん、こういった形で手続き決めましょうね。こういったところに電話すれば、大丈夫ですよって、こう、本当に寄り添った、一緒に家族ぐるみみたいのを、お手伝いじゃないけど、そういったのが1番求めているのかなってすごく思いますね。ただ帰っただけでは何もできないのが、今のおじちゃんち、おばちゃんちの声ですね。

齊藤座長  
前田委員

ありがとうございます。前田委員何かご意見あればお願いします。

私も高橋さんと同じなんですけど、やはり避難してそのまま湯河原に住んでの方とか、多賀に住んでの方とか、ご連絡を取ったりするんですけど、やはり帰りたい気持ちはあるんです。でも、本当にその隣の隣のっていうことをやっぱり話す、どうしようかなってというのは実情なんですよね。

だから、うちを直す直さない、そんなことよりも前に、帰ってからどうしたらいいかっていうことが1番の不安みたいで、やっぱり帰るとは言っているんですけど、どうしようかしらって回答がやっぱり皆さん返ってくるので、そこところがやっぱり大切かなと思います。で、さっきも言った、町を起すのもいいんですけど、やっぱり今やらなくちゃいけないことっていうものを目に見える形でどどん形にしていって、そこでこういうものを持っていうものをやった方が受け入れはできるのかなとは思いますが、先になんかこう賑やかなものを見せてあげると、なんかやんなくちゃいけないものっていうものに対しての熱は全然なくなってしまうんじゃないかなと思いますので、やっぱり今急がなくちゃいけないこと、道路のこととか入ってきて、こういう風な形のものできてるよって、たまにきた時に、被災者の方が来た時に、あ、これだけ変わって、これだけできてるんだねとかっていうものが今は何も見えないので、それを見せてあげたら、意欲も湧いてくるんじゃないかなと思います。

齊藤座長  
太田委員

はい。太田委員、何かございましたらお願いします。

前田さんも高橋さんもおっしゃいました通り、やはりあの、みんなとても不安なんです。帰りたくても帰れない、それが大前提だということをもっと理解していただきたいです。で、もっと住民の声を聞いてください。

私たちは、復興に対して声を聞かれたって認識はないんです。だから進まないんじゃないでしょうか。6割の方が反対してるわけですよ。それで、理解してください、理解してください、だけでは先に進めないと思いますよ。理解は

お互いにするものではないでしょうか。住民と行政がお互いに理解し合ってこそ先に進めるんじゃないかと私は思います。ぜひそれは、考えていただきたいです。ただ理解してください、納得していただきだけでは進まないです。もう2年3ヶ月も経ってますから、それは進めてください。ぜひお願いしたいです。で、先ほど、原さんの方から素晴らしい計画が出されましたけれども、私もやはり、今すべきは、帰るべき人が帰る、帰りたいと思ってる人が帰ることだと思います。

みんなが帰って初めてできることってあると思うんです。この復興計画にも、まちづくり計画にも、警戒区域の中のことっていうの、ほんの少しですよ。警戒区域の中も、もちろん復興されるんだけど、計画区域っていうのは非常に大きくて、結局そこを、町を全体に復興させる計画ではないですか。それだと人は帰ってこれないんですよ。その警戒区域の中に何もかも詰め込もうとしたらそれは無理ですし、人がいたところですから、それは理解していただきたいですね。人の営みがあった場所ですから、それを無理にということは難しいんじゃないでしょうか。やはり最初から丁寧に説明をして合意形成がうまくできなかった。それが今につながってるんですから、今からでも意見を聞いていただきたいです。全然、私たちは意見を聞いてもらったっていう認識はないです。ワークショップをやった時も、道路と川は大前提ですから、それ以外のことで意見をくださいと言われました。そういうことですよね。それでは、みんなで頑張ろうって言うのに進まないじゃないですか。反対してる人も帰りたいんですよ。帰りたいけど、うまく進んでいないんです。その辺をぜひ市長さんにもご理解いただきたいです。それと、あと、市の方の施策で、空き家対策ということで、被害がなかった家も、もういなくなると、壊すのに半額を補助するという制度があって、非常にいい制度で、利用される方も多いと思うんですが、それに伴って、今まで人のいたアパートなんかも取り壊してしまうということも複数軒あるようです。だから、本当は帰りたいのに、大家さんがもうアパートをやめるから帰れないんだと。それは大家さんからしたら仕方のない事情だということは十分わかります。補助金が出るうちになんとか始末をしたい、それは当然そういう風に思われると思います。でも、そうなら、本当は行政がその帰れなくなった方を手当てすべきじゃないでしょうか。帰れないけど、じゃあ残念だったねではなくて、公営住宅を作ってあげてもらえませんか。自宅じゃなくて借家だった方でも帰りたいっていう方はいらっしゃるんですよ。それを希望者がいないから公営住宅は作らないともう断言されていますけれども、この間、市長さんとお話しさせていただいた時に、希望者がいることも承知なさってました。そうならば、団地なんて作る必要はないので、ちっちゃいものでいいんです。アパート形式の長屋のようなものでも作っていただけないですかね。借家にいた方だって、伊豆山の住人です。持ち家の方も住人だし、全壊の人も住人だし、一部損壊の方もみんな伊豆山の住人だったじゃないですか。みんなで帰れるようにしてほしいです。ぜひ。この人はこうだから帰れない、そういうことかなるべくないように、自分の意思に

反してそういうことがないように、ぜひしていただきたいです。

それとあと1つ、基本計画とまちづくり計画の中に、逢初川の一体的管理っていうのがあるんですけども、逢初川は本流よりも支流の方が流量が多いですよ。でも、支流について一切触れていないのはなぜでしょうか。支流の方が距離も長いですし、水も多いです。で、見ると、川に温泉管とかいっぱい入っていて、そういうのは大丈夫なのかなっていうのはすごく思うんです。そういうところ全然触れてないので、盛土のことが書いてありますけど、もちろんそうだと思いますけど、盛土の管理はちゃんとしていただきたいんですが、支流のことを抜かしてしまったら、ちょっとそれは片手落ちではないのかなっていう気がするんですけど、改善をするということでしたら、ぜひ支流の方の管理を項目に入れていただきたいと思います。以上です。

齊藤座長           ご意見ありがとうございます。大館節生委員、何かございましたらお願いします。

大館節生委員       我々、絆の会が発足した時に、大体、伊豆山の仲間が、大体200軒ぐらいだったですかね、外に行ったのが。それで、その人たちにも、我々は月に1回、こんなことやってるよっていうのを送ってたんですけど、住所がわかんない。なので、市の配布物に、我々の、あれを入れていただいて、それで、皆さんに配ったんですけど、その中に、我々から直接、みなさん方に文書を送りたいんだと、我々がやってることを送りたいんだとって、賛成ですか、反対ですかっていったら、約200軒のうち、40軒ないんだよね、返事が。ですから、ま、ないっていうのはどういうことなのか、全然どうでもいいのか、関心がないのか、よくわかんないんですけど、そういうことがあって、ちょっと、こんなもんかなという風なものを感じました。それで、その中で、先ほど、あの、今、138件の人が、帰る対象になっているんですか。

中島委員           158世帯が被災して、そのうちの41世帯が戻りたいとっている。

大館節生委員       それも、家が全部なくなっちゃって、土地もなくなっていますよね。土地も全部取られちゃうって人も。川で。ですから、その辺のところがあって、意外とやっぱり少ないんだと、本当に帰れる人はっていう風にちょっと思っています。この中で、どうやってまちづくり、これからの伊豆山のまちづくりを考えたらいいのかなっていうのは、ちょっと大きなテーマだなっていう風には思っています。

齊藤座長           中島委員、何かございましたらお願いします。

中島委員           今の、あのお話で、自分のところは、一部損壊で、うちが残ってます。で、まだ、帰れてないし、電気も通ってないんですけども、戻って、ベランダから、外を、見てみるんですけど、もう、本当に、なんか、みんなうちがなくて、全壊されてる方で、公費解体で平らになってるうちなんですけども、で、あの人は、帰ってくるかなって、こうやって、自分で見てみると、ほぼほぼの人が、帰ってこなくて、あれ、どうなっちゃうんだらうっていうような、僕の感想なんです。その時に、1軒1軒、全壊して、整地になってるうちのところを、どうする、帰る

か帰らないかって聞くんですけど、大概の人が、売れば売りたいなみたいな話はね、現実問題で、あの、現場感ってあるんです。で、その話を、じゃあ役所の人に聞いてごらん、もしかしたら、緑化地区でね、買ってもらえるかもしれないです。じゃ、ちょっと相談してみた方がいいんじゃない。みたいな話をするんですけど、で、役所の方にも教えて、なんか行って見てあげてみたいな話するんですけど、まあ、今のところうまくいってないとか。この間、隣のうちの人が、あなたたちの隣の隣は緑化地区で買ってもらえるかもしれないけど、どうする。て言ったら、え、そんな話あるんですか。みたいな、そんな、個人的に買うとか売るとか、そんな話あるんですか。みたいな話を僕も言われて、いや、そう言われてみたらそうだと思うって個々に進めちゃうのか、それとも全体、役所として、全体で 買い取るとか買い取らないとかっていう、道筋を立てるとか、そんなことによっても、役所にお任せって、何もしない人ってのは困ってますから、受け身の方は、え、なんか、それだったら自分も売りたいなみたいなことが、僕が見てる感じで、自分の周りだけです、自分のその、警戒区域未来の会の方と、近所の方なので、この、近所の方にそういう方が多いっていうことが、まず、自分の中でいつも思ってることで。なんでそれが売りたいのかなってことになるんですけど、その、警戒区域の土地の価値っていうのがあって、やっぱり、簡単に言うと、事故物件って言い方はおかしいんですけどみたいな考え方で考えてしまうと、これから先、道がなくなるんですね。で、その道がないところに、建築系の仕事してるから、そこに材料をと思って、小屋建てようと思ってるんだ。だけど、この後、道が何年もないわけでしょ。それじゃ、そこに土地の価値ないじゃんっていうような話の方が、うちの周りに2件ぐらいいて、そうなったら、それじゃあ意味ないから、それならどうしようか考えてたんですよ。売ろうかな、やめようかなとか。その、建物が今まで立ってたって、今度立ってないわけだから、固定資産税ってどうなるのって話になって、建物が立ってないと6倍高いんでしょうみたいな話で、それだったら、売った方がいい、何にも使えない土地で、固定資産税の6倍だったら売った方がいいのかなとか。なんか、そんな話も出てきて、公共施設、例えば電柱だとか、消防の消火栓だとか、そういうものも、自分を、住むか住まないかわかんないから立ててくれてって言われても、ちょっと考えさせてみたいな話にもちよっとなってて。その全壊した方の土地、人たちがね、諦め半分、様子見半分みたいな、そういう状況が現実あるなっていう風に自分の中で思ってて。もしこれが何年も続くと、この人たち売るとかな。土地を売ってしまうのかな。って自分で思った時に、じゃあ、誰に売るとだろう。市が買ってくれなかったら誰になるんだろう。そしたら、海外資本の投資家に売るとか、それとも不動産屋さんはいくらでもいい、1番高く買ってくれる不動産屋に売るとか。何かそういうことがもし連鎖的に起こってしまうと、この土地の景観とかを、守ることってできないのかな。その土地はみんな個々のものですから、誰かがあなたの土地をどうこうとは言えないんですけど。ただ、そうなった時に、全体像

として新しいまちが、それじゃ作れないんじゃないのかなって思った時に、あ、これって市が、新たなことするのに、その地区の方を少し考えてもらえないかなみたいな。それで、地区の方で、まあ例えば売りたいっていう人だけでいいんですけど、対象にですね、理想は市が買い取ってですね、緑化地区として時間をかけてまた新しい町のプランを考えていくとかね、今の原さんの話だとか、例えば子育て世代の方を入れるだとか、まあなんかそういう考え方も持っていたりだかないと、自分の家の周りは誰もいないので、本当に何にもないところにぼつんと1軒うちがあるみたいな今の形になってるので、そのまま、被災した地区で、何もなくてそのままのあの岸谷地区になるのはね、ちょっと嫌だなと思うので、そこは、やってもらいたいと思います。だけど、1番皆さん、やっぱり大事なのは、この河川道路工事なんですけど、あの大館節生さんが言った、絵に書いていうか、なんだろう、チョークでもなんでもいいから、ここ、こんな感じになるよっていうのは、すごい面白いっていうか、わかりやすく、みんなが、わかりやすくいいような気がしましたので、なんか、それはやってもらえると、年寄りの方なんかはいいのかなと。口で説明してもあまりわかんないんですよ。なので、すごくいい案だと思います。以上です。

大館節生委員

土地の所有者の承諾をどっかでとらないといけない。

前田委員

県がやりましたよね。

齊藤座長

では、原委員、何かございましたらお願いします。

原委員

色々、今皆さんのお話伺っても、まず、川とか道とかができてないから、全然話が前に進まないんだなってことはすごく認識しました。さっき私が書いた絵もこれ。その時申し上げた通り、土石流が起きる前からこういうことやってんだってのは、実際、定年になったらここに住みたいと思ってるんですけども。伊豆山やっぱりね、ダウントレンドなんです。その、うちの温泉組合の、8人いるうちの、1人は桃李境だったんで、それだけが伊豆山で、あとはみんな東京から越してきた人に温泉がありますよって言って買ってもらったりして、うちの土地でも全然なんだけど、空き家になっていっちゃうんです。で、現に、うちの隣の隣、隣、隣、隣で、4件、下の見晴山っていうところはみんな空家になっちゃってんです。そこの空き家が、イノシシやサルに住みかになっていて、それから、夜な夜な、来られるもんですから、とにかく、あのあと、防犯上もあまり良くないので、やっぱり、伊豆山自身はそういうダウントレンドで、皆さんは帰りたいとか帰りたくないとか言ってるけども、何もしないと、おそらく、日本全国、限界集落っていう風によく今言われてますけれども、やっぱりそうやっていっちゃうんですね。温泉も、その、たまたま1軒でも1つ持ってる、すごい大変なんですけども、みんなこうスクラム組んで、その温泉と一緒になれば、多分、土地付加価値上がるんじゃないかなっていう、やっぱり、資産価値上げていくっていう中では、やっぱりここら辺はスクラムを組んで、町をアップトレンドの方に持って

いく。で、伊豆山の人、もとい人優先的に帰れる権利があるので、あとは外の人も入れ込みながら、やっていけば、今、あの、コロナがあったので、こういうところで、やっぱりリモートで仕事したいって人も増えてくるでしょうから、そういう人たちをうまく呼び込みながら、土石流あるなしに関わらず、やっぱり町に活力があるように持ってかなきゃいけないと思います。で、先ほど、私、会社の話しましたが、私、会社では監査部にいるので、基本的には、会社だからと言っても、上場企業みんなそうですけども、来いって言うても、ローソンは来ませんから、あの、基本は内部だから、よく知ってる人に話はできますけども、公私混同できないので、やっぱり企業としたら、やっぱそれなりにここに行ってチャンスがあるかなというところなんです。で、たまたまさっき言ったローソンの湯けむりローソンで、ローソンも今まで温泉と組んだことはないんですよ。なので、話題性があるから、それは私が言ったからということではなくて、企業としてやる可能性があるということです。そういったものが、まだ話し合ううちに持ってきて、やっぱりダウントレンドをこうアップトレンドに変えていく、災い転じて福となしていくようにしていく必要があるんじゃないかなという風に思ってます。もう1回空家になっちゃると、本当、隣の人なんかどこ行っちゃってるかわかんなくて、市にも色々お願いしてるんですけども、もうわからないんですね。この間、もう1つの隣の人は九州にお住まいになったら、九州まで私行ってお話をしてきました。それで、自分のうちがもう朽ち果てているということを写真で見せて初めて、あ、そんなになってんだってわかっていただいて、少し真剣になっていただきましたが、やっぱりそういうことを阻止しないと、いけないと思ってます。

齊藤座長  
高見委員

それでは最後になりますが、高見委員からお願いします。

先ほど申し上げたことしかないんですけど、そこに行く情報が取れるっていう場所と、あと、僕がイメージしているものと、なんかあんまりこう、そういうものが期待されないのかなっていうところで、申し上げるんですが、この場でするのでね、ご担当からの返答は不要ですが、僕の気持ちとしては、そこにいる人っていうのは、さっきの中島さんのお話で、見渡した時に、あの人がどう考えてる、この人がどう考えてるかっていうのを中島さんがお話されてる時に、当然、市のご担当は、あ、誰々さんのことだっかってわかってほしいですよ。わかっていらっしやると信じてます。当然、このぐらいの人の地区ですから、市のご担当は全員が何を考えて、今、何に困ってるかを把握していて、例えば高橋さんの話で、お互いがどうかっていう時には、本当は言っちゃいけないんですけど、あの人は今こう考えてんですよっていうような人がいてほしいって言ってるんです。で、僕は、市のご担当の現在の知識を集めれば、そういう状態になっていると期待をしていますけど、もし、なっていないんだしたら、次に僕をお尋ねする時までになつててください。最低必要ですから、そのぐらいのことは。で、加えて、そこでややこしいのは、あの、個人情報保護法ってやつなんですけど、今時、メモを

作っちゃいけない世の中になっちゃってですね、ちょっと公式の場では危ない発言しちゃいけないんですが、多分、お役所もそれを元に、人のことは言っちゃいけないっていう風に考えていて、それはいい言い訳材料になるんですよ。で、そこを踏み越えて、本当はいけないんですけどねっていう風に繋ぐ役をしなきゃ、なんか町づくりの担当にならないですよっていう風に思っていて、よくできた町は、そういう、ちょっとね、ルール破りな、担当者がいらっしゃる町で、いい町ができているんだと思いますので、ぜひ、その、あの人に聞けばなんでもわかる、その専門外の方でも出てくると思うんです。税金の話ですとか、不動産の話とか。それも含めて、ちょっとわかんないことは当然持ち帰って次まで答えますでいいんだけど、ぜひそういうような窓口を地元においてくださいっていう、お願いです。

齊藤座長            ありがとうございます。それでは、今日は貴重なご意見をありがとうございました。もう時間も、当初の時間になっておりましたので、長い時間、皆様、大変お疲れ様でした。どうもありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返しします。

事務局               はい、ありがとうございます。本日は、多くの意見をいただきまして、ありがとうございます。本日いただいた意見への対応を、整理いたしまして、今日、前半に、お示しした、年間のスケジュールですね、こちらに基づきまして、まず、各施策の、改善を検討させていただいて復興計画の方の改善案、取りまとめさせていただいて、次回、3月を予定しています第2回の、懇話会の方で、またお話し、報告させていただきたいというふうに思っております。また、第2回の方でございますが、場所や日時等の詳細につきましては、決まり次第、改めて連絡させていただきます。

                          以上をもちまして、第1回熱海市伊豆山復興まちづくり推進懇話会を、はい。  
太田委員            よろしいですか。今日の意見は、言っぱなしで終わりということよろしいですか。

事務局               本日いただいた意見につきましては、対応を整理させていただきます。

太田委員            公表はなしですか。

事務局               それについては、次回、しっかり示せるようにいたします。その上で、各施策の改善の検討、復興計画の方の改正案の取りまとめたものを報告させていただきます。

太田委員            今出た意見についてはしない。

                          反映させたものだけでなく、今皆さんが言ったことについての回答もある。

事務局               当然、全て整理させていただいた上で、対応を整理したものを示させていただきますと思います。

太田委員            はい、ぜひお願いします。

## 7. 閉会

事務局

それでは以上をもちまして、第 1 回熱海市伊豆山復興まちづくり推進懇話会  
を閉会いたします。